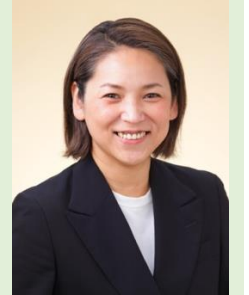


▼フレンズコーナー

土木落語

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 広報専門委員会
 イメージアップワーキンググループ
 大日本コンサルタント株式会社 経営統括部 広報室
 白石 典子



土木落語

DOBOKU RAKUGO

江戸時代の水屋のまっつぁんと土木技術者が現代で出会い土木を語る創作落語「水屋の夢」をYouTubeにて公開しています。土木落語はYouTubeでも口演されている柳家小きん師匠と一般社団法人建設コンサルタンツ協会の広報専門委員会「イメージアップワーキンググループ」のメンバーで創作しました。土木落語に込めました思いをお話しさせてください。

土木落語で「きっかけ」を

「土木」が何を意味するのか「正しく」一般的に理解されていないことは、このCNCP通信をお読みの皆さまがよくご存じのことと思います。一般社団法人建設コンサルタンツ協会、広報専門委員会「イメージアップワーキンググループ」では、これまでも活動を行ってききましたが、より多くの方に土木を知る「きっかけ」を作ろうと2019年からはじめたのが「土木落語」の企画でした。

蛇口からいつでも飲める水がどのように届けられているのかなど、生活で目にする土木は一部であるということを深く考える機会は乏しく、暮らしを支えているからこそ「土木」の分野は幅広い「正しく」理解するのは難しいように思います。反対に、身近だからこそ「きっかけ」さえあれば、私たちの豊かな暮らしと「土木」がどのようにつながっているのか、とても理解しやすいものだと思っています。

聞き手の想像力をかき立てる落語とコラボレーションができれば、「土木」を知る「きっかけ」をより多くの方に届けられるのではないかと考え、創作したのがYouTubeに公開中の「水屋の夢」です。「水屋の夢」は、江戸時代の普請が現在に引き継がれていることを題材に創作しました。現在の私たちの暮らしの中にある土木は長く続くもの、未来につながるものであるというメッセージが込められています。

土木落語と一緒に創作し、口演頂いている柳家小きん師匠は、これまでも小学校や図書館で子供を対象とした口演活動もされています。私たちの活動でも一緒に、学校、図書館のほか、デパート、船やバスでのツアーなど、さまざまな場所で、「土木」を知っていただくイベントを行っていきたいと考えておりましたが…コロナによってイベント活動は足止めです。

この先、コロナが明けた生活にどのような変化があるのかわかりませんが、現在は、「土木落語」の第2作品の創作に着手し、より多くの関心が「土木」に寄せられるように、活動を行っていきます。



一緒に活動するワーキングメンバー、下段左から3名、建設技術研究所の松田さん、日本工営の西村さん、杉山さんです。※松田さんの衣装は私物

土木落語が生まれる以前のイベント

土木落語の企画は、一般社団法人建設コンサルタンツ協会の広報専門委員会「イメージアップワーキンググループ」の活動として行っています。当協会には、さまざまな委員会があり、技術の向上を目指し、全国にある支部・本部にて会員企業のメンバーが集まり活動をしています。当ワーキンググループは、小学生・中学生を対象に「土木（社会資本）とは何か・暮らしとどのように繋がっているのか・建設コンサルタントが果たす役割」を広報し、さらには当協会のイメージアップを図ることを目的に2013年に発足しました。技術者の2名を含む計4名で活動しています。



バスツアーの内容は毎日小学生新聞の記事として参加者の感想とともに掲載しました

これまで当ワーキンググループでは、2015年と翌年の2回、小学生とその親御さんを招待し、土木の現場を巡るバスツアーを毎日小学生新聞と共同で実施しました。設計担当者自身がツアーガイドとして同行するため、参加者と一緒に目線で工夫した点、特徴などを説明することができ、また参加者の率直な質問にもその場で答えることができます。また、旅のしおりとして「特派員手帳」という冊子を準備し、皆さんの首から下げてもらうことで説明内容の補足が手元で確認できるように工夫しました。昼食や徒歩での移動の際、自然と生まれる会話のなかで参加者から疑問に答えている場面を多く目にしました。

その後、2017年とその翌年には、毎日新聞社が企画する「学びのフェス」に参加しました。「学びのフェス」とは、小学生を対象に企業や団体がそれぞれ授業形式のワークショップを行い、一日でさまざまな勉強ができるイベントです。初めての「学びのフェス」では、お話がとても上手なメンバーが先生となって、抱える課題をクイズ形式で一緒に考えることで建設コンサルタントの仕事を勉強してもらいました。その翌年は建設コンサルタントの技術者に協力いただき、液状化とダムとの模型を使って授業を行いました。公益社団法人土木学会が作成した「ポケドボ」カードでゲームも行い、どんな災害があるのか、事前対策の重要性も一緒に学ぶことができました。



初めて会った子供たちが一緒になって「ポケドボ」カードゲームで遊びながら事前防災について学びました



ダムと河川の模型に子供たちが雨を降らし、ダムの設置によってどのように水の流れが変化するか確認しました

これまでのイベントで教えてもらったこと

企画を進めるなかで、建設コンサルタントの技術者のほか、ツアーイベントでは管理者・施工者などの土木に関わる皆さんは丁寧にさまざまなことを教えてくれました。「土木」は専門知識が必要ですが、理解しがたいものではなくとも思っています。土木の知識がない・子供だからとは考えずに、難しい内容でも解りやすく丁寧に会話し、イラストを工夫したり模型やゲームなどで想像が広げられるように、関係するみなさんと一緒に何度も検討を重ねて実施することで、イベント参加者も理解を深めることがで

きたようです。

初めてのバスツアーでの終盤、お母さんに背中を押され女の子が恥ずかしそうに私に質問をしてくれました。

「建設コンサルタントになるには、どんな勉強をすればいいのですか？」

「土木」を知る「きっかけ」から、「土木」に関わる仕事も魅力的に映ったようです。



ひとりひとりの質問に答える建設コンサルタントの技術者いたる所で沢山の会話が生まれていました



首から下げているのが「特派員手帳」。夏休みの自由研究として確認できるので冊子にしてくれてよかったとの声も

好評を博したイベントを4回実施してまいりましたが、どのイベントでもイベントごとに協力者を募り、参加者にとって有意義となる題材・材料を探し出して時間をかけて準備し実施しています。こうした状況に対し、参加人数の限りがあるイベントに後追いで企画するのではなく、さらに多くの方に「土木」を知る「きっかけ」を得る機会を作れないかとメンバーが考え出したアイデアのひとつが土木落語でした。

「土木」を知ることは、とても大切なことだと感じています。豊かな暮らしがどのように支えられているのか知ること、SDGsや防災・減災を身近に考えることができると思っています。そのためにも、土木落語をYouTubeに公開して終わるのではなく、土木落語をコミュニケーションツールとしてイベントを行い、さまざまな場所でその土地にまつわる「土木」について語ることで、身近な「土木」を知る「きっかけ」を作っていきたいと考えています。私たちのこれからの活動にご期待ください。

最後に、この場をお借りして、これまでイベントにご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。お一人お一人にお礼を申し上げたい気持ちでいっぱいですが、このすべてのページがお礼で終わってしまいそうです。また一緒にイベントができれば嬉しいです。



土木落語「水屋の夢」撮影が終了し最終打合せ中の様子。柳家小ぎん師匠のお力で楽しく土木落語の創作・活動ができています



土木落語プロジェクト YouTubeチャンネル

「土木落語」でYouTube検索してください。